

同性婚への意見	1年次	3年次
賛成	43.8%	41.3%
どちらかという賛成	40.6%	45.3%
どちらかという反対	13.1%	8.7%
反対	2.5%	4.7%

3年生での、文化の伝承・創造の視点で考えた日本の「家族・家庭生活」の授業では、最後に同性婚への賛否を問うたところ、「誰も不都合ではないから、その人の自由である」という端的な意見は少なく、多様性を尊重しつつも、社会のことも意識し、そのジレンマの解決のために考えようとしているのが特徴であった。これまでの学習において、個人の利益と社会の利益におけるジレンマの存在を認め、よりよい意思決定をする力がついているためと考えられる。また、他国と比較したり、社会科で学んだ法律や権利を根拠に挙げたりして、記述している生徒が多くみられた。

以上のことから、今回の実践は、多様性を尊重する生徒の育成に効果的であり、個のウェルビーイングの向上に有効であった。

課題として、授業の振り返りや授業後の一時期のみならず、長期にわたる実生活での学びの活用が引き続き求められる。家庭科の目標である「自分や家族のよりよい生活」を意識することを副次的にせず、「個のウェルビーイングの向上」と「持続可能な社会の構築」という双方の充実を目指すことで、ウェルビーイングの向上を図りたい。

奨励賞

【外国語科】

子ども・教職員・地域をつなぐ 外国語科プロジェクト型学習

大阪府立久米田高等学校（前 岬町立岬中学校）

じゅうの かなみ
重野 金美

実践の概要

本実践は大阪府最南端に位置し、過疎地域にも指定されている岬町に唯一の中学校である岬中学校の中学1年生が、地域の人々と関わりながら、岬町の抱える実際の課題を、英語を使って解決するプロジェクト型学習 (Project-Based Learning) の実践である。プロジェクト終了後に、生徒に対して質問紙調査（4件法調査／生徒の振り返り・感想の記述）を実施し、本校の生徒が抱える3つの課題に対しての効果を検証した。

論文内容の紹介

1 | 実践の目的

本校生徒が抱える課題を解決することを念頭に、本実践の目的を以下の3つに定めた。

- ① 生徒が明確な目的意識をもって英語を学び、英語学習の意義や必要性を感じ取ることができる
- ② 生徒の地域に対する理解を深め、地域とのつながりを強める
- ③ 生徒の自己効力感を高める

2 | 実践の全体計画

本実践では、岬町の抱える「外国人観光客が訪れない」という課題の解決をめざして、生徒が地域の人々に直接出会い、行ったインタビュー結

果を参考に英語紹介ポスターを作成した。その後、岬町の公式SNSにポスターを掲載して、岬町や地域の人々の魅力を世界の人々へ発信した。以下は全体計画である。

時期	内容	時数
9月	プロジェクトの導入 (課題把握・動機づけ)	1時間
9~12月	プロジェクト達成を常に意識した日々の英語学習	38時間
10月	インタビューをする 事業者の決定	1時間
10~11月	インタビューの準備 (国語科との連携)	6時間
11月	事業者へのインタビュー (地域の人々との出会い)	2時間
12~1月	英語紹介ポスターの作成	9時間
3月	岬町の公式 SNS を通して 世界に発信	—

3 | 各段階での学びの様子

(1) プロジェクトの導入

プロジェクトの導入では生徒の動機づけを図ることを重視し、岬町観光課の方から直接生徒へプロジェクトの依頼をしていただいた。また、驚きの要素として生徒全員分のポスターが岬町の公式SNSに載ることや、生徒の頑張りをテレビが取材に来ることを生徒に伝えるなどの工夫をした。



写真1 観光課の方からのプロジェクト依頼

(2) プロジェクト達成を常に意識した日々の英語学習

生徒が日々の英語学習の目的や意義を感じ取れるように、音読や筆写などの練習活動の場面では、必ず「この文法や表現を使ったらインタビューした人のどんなことが紹介できる?」と生徒に発問をし、子どもたちから意見を引き出し、学習内容の必要性や意義を生徒たちと共有した上で習得に向けた練習活動を行った。また、獲得した知識・技能を実際のコミュニケーションの場面で活用するパフォーマンス課題を実施した。単元ごとの振り返りの際には、「一枚ポートフォリオ評価」の考え方を採用し、2学期で学んだ単元の振り返りをすべて1枚の用紙に記録をするなど、生徒が今どこに向かって学習しているのかを感じ取れる工夫を行った。

(3) インタビューをする事業者の決定

生徒の意見を参考に、岬町観光課の方がカフェ店主やエステティシャン、漁師、ブルーベリー農家など地域で活躍する事業者と生徒とをつないでくれた。また、観光課の方から生徒へ事業者の紹介や説明をしていただき、班ごとどの事業者にインタビューするのかを決めた。

(4) インタビューの準備(国語科との連携)

インタビューする相手が決まったあとは、国語科の授業の中で、生徒たちはインタビューの方法や必要な情報を引き出す質問の仕方などを学んだ。また、国語科教諭と図書館司書によるインタビューのロールプレイを見て、良いインタビューに必要なことは何かについて生徒同士で意見を交流させた。

(5) 事業者へのインタビュー

国語科での準備のあと、地域で活躍する6名の方に来校していただき、班ごとでインタビューを行った。生徒と事業者のやり取りの中で、事業者の方からは職業の内容に止まらず、人生で何を大切にしているのかなど生き方に関するこ

も教えていただいた。



写真2 事業者へのインタビューの様子

(6) 英語紹介ポスターの作成

12月に入り、インタビュー結果を参考にして英語紹介ポスターの作成に取り掛かった。とりわけ大切にしたのは、中間発表で同じ班のメンバーや学校中の教職員から得たフィードバックを基に、ポスターを作り直す工程だ。これにより、外国人観光客を呼び込むために必要な要素が自身のポスターに不足していることに気づき、自分で修正を加える生徒の姿が見てとれた。



写真3 生徒のポスター成果物

(7) 岬町の公式SNSを通して世界に発信

以上のような過程を経て、令和6年3月に生徒が作成した学年生徒全員分の完成版ポスターを、岬町の公式HPやインスタグラムを通して世界の人々に発信した。

4 | 結果

プロジェクト終了後の3月に生徒51名(2クラス)を対象として行った質問紙調査(4件法調査/振り返り・感想の記述)の結果を本実践の3つの目的に沿って紹介する。なお、紙面の都合により本紙では4件法によるアンケート結果のみを掲載する。

(1) 英語学習の目的意識や必要性・意義を感じ取らせることへの結果

「日々の英語の授業がMEGAのポスターで事業者を紹介することにつながることを理解して、2学期の学習に取り組めた」との質問には、98%の肯定的な回答があった(図1)。

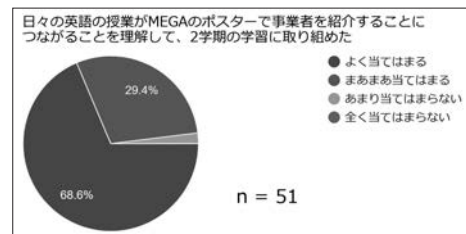


図1 事後アンケート結果(英語学習面)

(2) 生徒の地域に対する理解を深め、地域とのつながりを強めることへの結果

「事業者との出会いを通して、岬町への理解が深まった」、「事業者との出会いを通して岬町への関心が高まった」との質問に対しては、両者とも90%以上の肯定的な回答を得た。なお、紙面の都合により図表は割愛する。

(3) 自己効力感を高めることへの効果

「MEGAプロジェクト(本実践)など、自分たちが岬町の状況を少しでも良い方に変えることができる可能性があると感じる」との質問に対しては98%の肯定的な回答を得た(図2)。

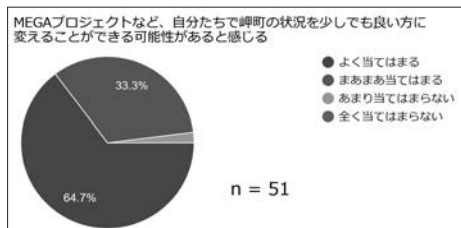


図2 事後アンケート結果（自己効力感）

以上の結果より、本実践の3つの目的に対して一定の効果があったように思われる。今後は外国科のみではなく学校全体でプロジェクト型学習の研究や実践を行っていきたい。

奨励賞

【数学科】

特別支援学級におけるICTを活用したUDL数学科授業の実践

岡山県早島町立早島中学校
ながみね しょうた
長嶺 翔太

研究の目的

岡山県では、特別支援を必要とする生徒の増加に伴い、特別支援教育の観点に基づく授業づくりが重要視されている。本研究は、中学校の自閉・情緒学級を対象に、タブレット端末を活用したUDL（学びのユニバーサルデザイン）に基づく授業実践を通じて、生徒の学習への取り組みを具体的に示すことを目的とした。特に、学習支援動画とデジタルドリル教材「タブドリLive!」を中心に、ICTが学習をどのように支援したかを報告し、特別支援学級や通常学級における授業の参考とすることを目指した。

研究の実際

対象は岡山県X中学校の自閉・情緒学級に在籍する中学1年生で、令和Y年6月から9月にかけて中学数学「文字の式」の単元で研究を実施した。学習支援動画は、教師がメタモジノートを活用して作成した動画教材であり、教科書の重要ポイントや演習問題を視覚的および音声で解説したものを生徒が自分のペースで視聴できるようにした。一方、タブドリは、生徒の個別の学習スタイルに応じた課題選択や進捗管理が可能なデジタル教材であり、学習意欲を高める工夫も含まれている。授業全体の計画は、自由進度学習の考え方を取り入れ、単元全体の学習計画を生徒に提示したうえで、毎授業の目標を明確に示し、学習支援動画とタブドリを活用しながら各自のペースで学習を進められるよう設計した。生徒の学習状況は観察と記録を通じて把握し、さらにインタビューを行い、生徒の意見を収集した。抽出児A児はタブドリを使い学習意欲が向上し、進捗状況の可視化や即時フィードバックが効果的だった。キーボード入力が興味を引き、学習を継続しやすくなった。抽出児B児は学習支援動画を使って自分のペースで学習し、繰り返し視聴や一時停止機能を活用することで理解が深まった。視覚的な整理が進み、ノート作成に役立った。どちらもUDLに基づいた学びの支援が、個別の学習スタイルに適応して学習意欲を高めた。

研究のまとめ

本研究では、中学校の自閉・情緒学級においてタブレット端末を活用した学習支援動画やタブドリを使用し、UDLに基づく授業を実施した。結果として、ICTの活用により生徒一人ひとりの学習スタイルに合わせた個別化された学びが支援され、生徒の主體的な学びの姿勢が育成されたことが明らかになった。特別支援学級では複数学年が混在することが多く、従来の一斉授業では個別の学習ニーズに十分対応できない課題があるが、本研究のUDL授業では各生徒に応じ

た指導が可能であることが示唆された。特に、学習に消極的だった生徒や学習進度が遅れがちだった生徒がICTを通じて積極的に参加でき、自己ペースで学習を深めることができた。これにより、ICTを活用したUDL授業は、特別支援学級のみならず、通常学級でも効果的に活用できる可能性があることが示された。

本研究では、ICTを活用したUDL授業で個別最適な学習環境の提供を目指したが、協働的な学びの機会が不足しており、特にコミュニケーション能力の発達を促す機会が不足していた。自閉・情緒学級の生徒は他者とのコミュニケーションに困難を抱えており、協働的な学びが重要であると認識されるが、ICTによる個別学習ではその機会が限られていた。このため、今後は、単元計画においてコミュニケーションをしながら互いに学び合う機会を意図的に設定し、協働的な学びも促進することが課題となる。

奨励賞

【社会科】

図形言語で歴史の授業に革命を！

～コンセプトマップ（概念地図）で学ぶ中学歴史～

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校

なかやま 幸昭

中山 幸昭

実践の概要

人間は「オブジェクトの多様性を直感的に理解し、他者とコミュニケーションする目的で、系統樹・地図・ダイアグラム」などの「図形言語」を用いてきた⁽¹⁾。

図形を言語として語らせれば、歴史をもっと深く、面白く学ぶことができる。全体像のビジュアルからトップダウン処理によって「何についての話か」が与えられ、部分の理解へ向かう力が生じるからである。私が用いる図形言語はコンセプトマップである。

論文内容の紹介

1 | コンセプトマップ（概念地図）とは

学習内容を要素に分解し、線（矢印）で結び、地図状に表現（マッピング）したものである。認知心理学では図上の概念や知識を「ノード」（結節点）、ノード間の矢印を「リンク」、リンクに付す説明を「ラベル」とよぶ。記憶のモデルであり、教師が作成して提示するにせよ、生徒自身が作成するにせよ、学習に有益なツールと考えられている⁽²⁾。

作成の初期はリンクが錯綜して見づらいが、書き直す中でグループ化して枠で囲むなどしてリンクを減らし、交錯させないようにすると格段に見やすくなる。これは、知識や思考が整理されて

深い学びが成立し、かつ「自分は何を知っているか」というメタ認知を得る過程でもある。

2 | 歴史の教科書から作成する

学習指導要領の「我が国の歴史の大きな流れ」とは教科書である。「社会的事象の歴史的な見方・考え方」、すなわち時系列、事象の推移や比較、相互のつながりなどの視点も包蔵される。記述される知識(事象)と思考(解釈)の網の目を「使って書き換える」ことはグローバル社会で共生するための基盤である。

以上の理由で私は歴史の教科書を再構成したコンセプトマップを授業に用いている。そもそも、関係を構造化して表現するコンセプトマップは因果・影響・交流・対立など諸関係の集積である歴史との親和性が極めて高い。多くの人物や事件を1枚の紙上に並置することで、関係性の中から「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史

を背景に、各時代の特色を踏まえて理解することができる。幕末直前に清や欧米勢力を「随時」登場させられる便利さもある(資料1)。

3 | コンセプトマップを用いた授業

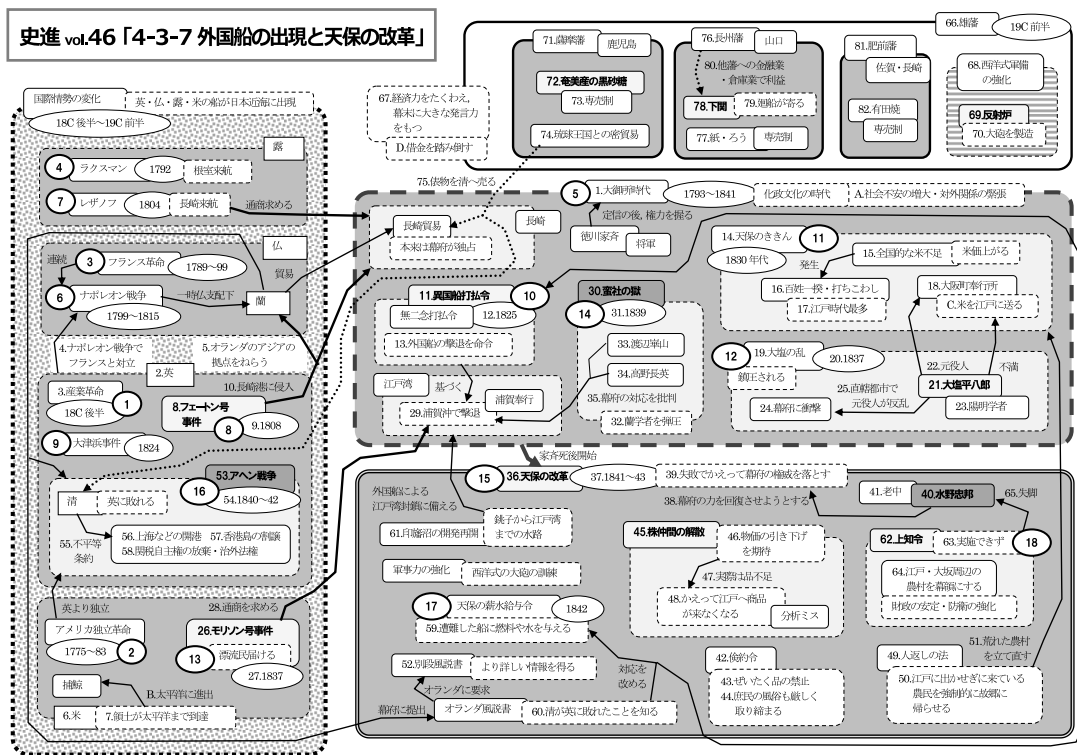
(1) 2種類のワークシート(A4サイズ)

①教科書(東京書籍『新しい社会 歴史』)1単元分(2ページ)のコンセプトマップ:ノードとラベルに数十か所、通し番号を付け、うち20か所程度を空欄にする。

②上記①と同範囲をレジュメ形式でまとめた復習用ワークシート(資料2):①で通し番号を付した語句が同じ番号付きの空欄となっている。

(2)授業の展開

冒頭に班で教科書をマル読みした後、ウォームアップとして①の指定された3か所の空欄にあてはまる語句を相談して探し、解答をシェアする。



資料1 投影用のコンセプトマップ
(生徒用は「36.天保の改革」・「53.アヘン戦争」など太字で示した語句が空欄になっている)

- ① 【1. 】 (1793~1841) …文化・文政年間にあたる (文化文化の時代)
 →A.
 a. 徳川家斉 (11代将軍) …在位50年間+辞めた後「大御所」4年
 …松平定信が老中を辞めた後、権力を握る
 b. 国際情勢の変化 (18世紀後半~19世紀前半) …幕府は外交政策の変更をせまられる
 →ロシア船・イギリス船・アメリカ船・フランス船が日本の近海に出現
 ▲【2. 】 (イギリス)
 …市民革命・【3. 】を経験、フランスとの植民地争いに勝利 (〜18世紀)
 △フランス革命に続く【4. 】 (19世紀初め)
 …【5. 】 (フランス支配下)
 ▲【6. 】 (アメリカ) …イギリスより独立 (独立革命; 18世紀後半) →西部開拓
 →【7. 】 →B.
 c. 【8. 】 (【9. 】) …英の軍艦が【10. 】
 [cf] オランダ国旗を掲げて接近 [cf] 長崎奉行は切腹
 d. 【11. 】 (【12. 】) …【13. 】
 [cf] 無二念[わにねん] (=ためらうことなく) 打払合ともいう
 ▲清・朝鮮・琉球の船は対象外/オランダ船は長崎以外の場所では打ち払う
 [cf] 文化の薪水給与令 (1806) …外国船に食料・水を与えて帰国させる (上陸させない)
 [cf] 大津浜事件 (1824; 異国船打払合の前年)
 …水戸藩領の大津 (北茨城市) の浜に英人 (捕鯨[ほりい]目的) が上陸
 /漁師たちが沖合でイギリス人と物々交換
 [cf] シーボルト事件 (1828) …捕鯨時に伊能忠敬の地図 (国外持ち禁止) を持ち出そうとする
 ↓
 e. 【14. 】 (1830年代) …【15. 】 (米価が上がる)
 ▲【16. 】 (「世直し」を要求) …多発 (【17. 】)
 →幕府・諸藩は適切な対策を立てられず
 △【18. 】 は困った人を助けず、大阪 (餓死者出る) のC.
 f. 【19. 】 (【20. 】) …天保のききんに対する大阪町奉行所の対応に不満
 ▲【21. 】 (大坂町奉行所の【22. 】 / 【23. 】; 塾を開く)
 …弟子と貧しい人を救うために大商人をおそうが失敗→応じた百姓一揆が全国で起こる
 ▲幕府に【24. 】 …幕府の【25. 】 (大阪) したため
 ↓
 g. 【26. 】 (【27. 】)
 …米の商船が浦賀[うらが]沖に接近、日本人漂流民を引きわたし【28. 】
 ▲幕府 (浦賀奉行; 三浦半島/江戸湾の入り口) …異国船打払合に基づき【29. 】
 [cf] モリソン号・薩摩の山川[やまかわ]でも撃退される
 h. 【30. 】 (【31. 】) …モリソン号事件を批判した本を書いた【32. 】
 ▲【33. 】 [かざん] (家老) …謹慎 (一後に自殺) [cf] 蛮社[ばんしや] = 勉強会の名前
 ▲【34. 】 (医者; シーボルトに学ぶ) …牢屋へ (一脱獄→追い詰められて自殺)
 △『戊戌夢物語[ぼじゅつゆめものがたり]』…モリソン号への【35. 】

- ② 【36. 】 (【37. ~ 】; 徳川家斉の死後開始/12代将軍家慶[いえよし]の時代)
 …【38. 】 (財政の再建/社会のひきしめ)
 →【39. 】
 a. 【40. 】 (【41. 】) …天保の改革を行う
 [cf] 改革を行う前はいろいろ政治…「水」(=水野) 出て もとの田沼に なりにける
 b. 【42. 】 …日常生活 (衣食住) 全般にわたる/将軍・大奥も含む
 ▲【43. 】 …派手な衣服・高価な菓子・料理なども禁止
 ▲【44. 】 …人情本 (恋愛を描く) の禁止
 [cf] 江戸の寄席…211軒→15軒
 c. 【45. 】 …【46. 】
 ▲物価の上昇は株仲間による「下り物」の独占が原因と考える (分析ミス)
 …【47. 】 (生産地から上方に届く前に売買されてしまう)
 →【48. 】 (株仲間は後に復活、明治初期まで続く)
 d. 【49. 】 …【50. 】
 →天保のききんで【51. 】
 e. 【52. 】 [べつだん] …オランダ風説書より詳しい情報を得るためオランダに要求
 ▲【63. 】 (【54. ~ 】) …清が英に敗れる→【55. 】 を結ぶ
 ▲南京条約 (1842) …【56. 】 - 【57. 】
 △追加条約…【58. 】 など
 f. 天保の薪水給与令[しんちきゅういれい] (1842) …【59. 】 (まき)
 →オランダ風説書でアヘン戦争で【60. 】
 g. 軍事力の強化をめざす…西洋式の大砲の訓練を行う
 h. 【61. 】 (田沼時代に始めたが中断) …水野の失脚でまた中断
 ▲餓子から江戸湾 (外国船による封鎖に備える) までの水路をつくらうとする
 i. 【62. 】 [じょうちれい (あげちれい)] …【63. 】
 ▲年貢がよく取れる【64. 】 …財政の安定・防衛の強化
 …大名・旗本 (よくない土地と交換) の強い反対で失敗→水野【65. 】 の直接の原因
 [cf] 水野忠邦の失脚…民衆から「水野は叩[たた]くに (忠邦) もってこいの 木魚だ」
- ③ 【66. 】 [ゆうはん] の成長…主に西日本の諸藩が独自の改革で財政立て直し (19世紀前半)
 ▲薩摩藩・肥前藩・長州藩 (全て外藩) …【67. 】
 △【68. 】 …【69. 】 (高値→買の高い数) をつくる→【70. 】
 a. 【71. 】 (鹿児島/藩主; 島津氏) …商人からのD. (無利息・250年で返す)
 ▲【72. 】 [あまみ] (全て買入れ) …【73. 】 (高い値段で売る)
 ▲【74. 】 …長崎で買った蝦夷地産の【75. 】 (琉球経由で)
 →本米、幕府が清との貿易 (長崎貿易) を独占するはず
 b. 【76. 】 (山口/藩主; 毛利氏) …藩の借金を踏み倒す/【77. 】 の専売制
 ▲【78. 】 (【79. 】) …【80. 】
 →他の藩へ金を貸す (金融業) /商品の買い取り・販売 (倉庫業)
 c. 【81. 】 (佐賀・長崎/藩主; 鍋島[なべしま]氏) …借金の一部だけ返済
 ▲【82. 】 (陶磁器) の専売制…ヨーロッパに輸出
 [cf] 水戸藩…尊王攘夷の中心 (水戸学) →改革成功せず
 [cf] 岡山藩 (財政難で後約合) …えた身分の衣類を限定 (浴衣など) →浴衣一揆起こる
 →後約合実施せず

資料2 復習用のワークシート (コンセプトマップから語句を書き写す)

生徒の視点が全体と部分を往還しはじめる。その後、電子黒板に投影されたコンセプトマップ (資料1) を見て、解説を聞いたり、問いについて話し合ったりしながら、各自の①の空欄に語句を記入する。①の一部の説明を求められることもある。授業後、②の空欄を全て補充し、週1回提出する。

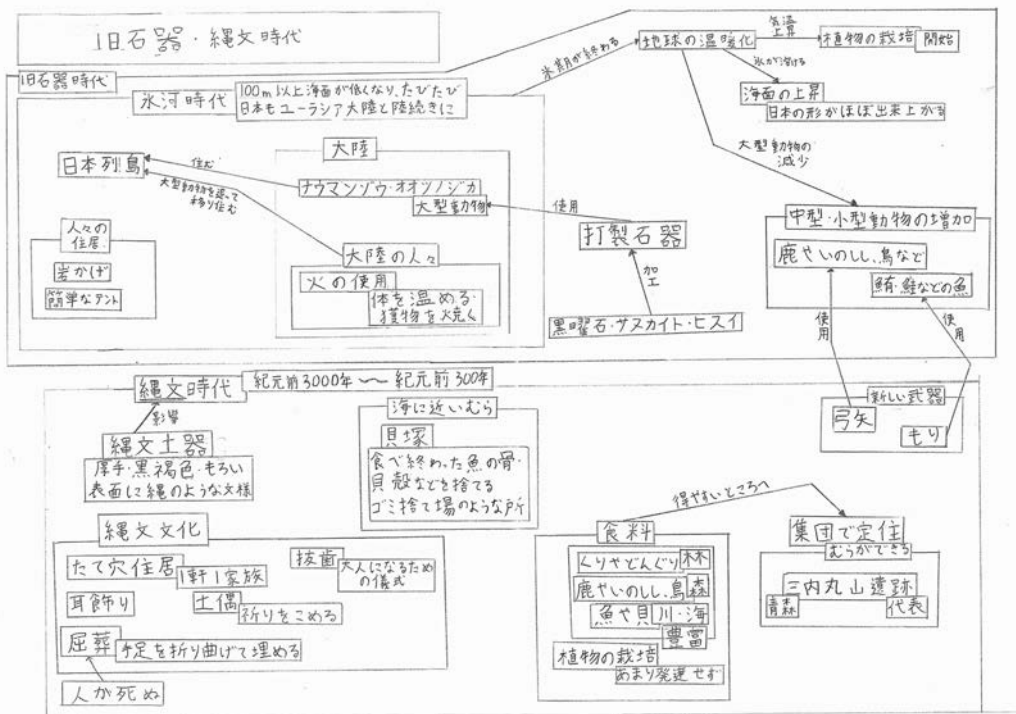
メリットは次の通り。視点の拡大と縮小を繰り返して学ぶことで立体的な歴史像の形成が期待される。また、①・②の併用で内容の定着とともに板書量を削減でき、発表やグループワークなど他の手法との組合せが容易となる。教師がとっておきの小ネタを話す時間も確保できる。

(3) 生徒による作成と発表

次の章に移行する際に全員が班ごとに割り当てられた範囲で作成する (資料3)。作成後、班

で選んだコンセプトマップを用いてパートを分担して発表する (資料4)。

作成や発表は多少間違っても、その後、調整すればよい。これにより生徒は以後の授業について見通しを持つことができる。また、コンセプトマップを言語化して発表する際にオリジナルの表現が生まれ、アウトプットによる学習効果が生じる。



資料3 生徒が作成したコンセプトマップ



資料4 発表の様子

4 | まとめ

コンセプトマップを「主体的・対話的で深い学び」の中核におく授業は、長らく高校の世界史で受験生を相手に実践してきた。現在、中学校に勤務しているが、授業に慣れた中2・中3生の評価（4点満点の平均で「歴史の授業は歴史を深く学ぶことができる」が3.85、「歴史の授業は面白い」が3.54）は良好である。図形言語としてのコンセプトマップの可能性はまだある。さらに

追求したい。

【注】

(1) 三中信宏(文)・杉山久仁彦(図版)『系統樹曼荼羅 チェイン・ツリー・ネットワーク』、NTT出版、2012、7p

(2) 守一雄『認知心理学』(現代心理学入門1)、岩波書店、1995、176p

市川伸一『学習と教育の心理学』(現代心理学入門3)、岩波書店、1995、165p